

大阪市立大学都市研究プラザ先端的都市研究拠点・第2回URP特別研究員（若手・先端都市）研究発表会  
（合評会）兼大阪マニラ都市研究フォーラム

Osaka City University's Urban Research Plaza (Platform for Leading-Edge Urban Studies)  
2nd Annual Workshop for URP (Young, Leading Edge Urban) Special Researchers  
and UCRC Workshop (Overall Evaluation) joint with Manila Urban Research Forum

2016年3月9日（水）・10日（木）、第2回URP特別研究員（若手・先端都市）&UCRC博士研究員研究発表会（合評会）兼大阪マニラ都市研究フォーラムが学術情報総合センター1階文化交流室で開催され、両機関の若手研究員15名に加え、教員1人とゲスト2名の計18名が発表を行った。合評会は、グローバルCOE事業終了後もグローバルな学術拠点として活発な活動を展開しているURPのグローバルCOE継続事業として、毎年9月と3月の2回開催しているものである。

初日は阿部昌樹（URP所長）の開催挨拶の後、特別研究員4名が研究進捗状況の報告や研究発表を行った。

まず全ウンフィは、戦後に残存した不法占拠地区を高度成長期以降の貧困の社会空間と位置付けた上で、そうした地区を抱えた地域の市民性の実践を通じた不作為の正当化プロセスを明らかにし、民族を巡る場所の政治について論じた。鄭榮鎮は、大阪府八尾市の地域史について、日本人と外国人の共生の視点から、在日朝鮮人の民族教育に日本人がどのように関わったのか資料に基づき検証した。山田信博は、人口減少社会における公的住宅の処分過程について、特に公営住宅を民間等へ譲渡・貸与した事例を紹介し、行政と国民が共に納得する円滑な住戸数の減少過程を考察した。最後に沼田里衣は、インクルーシブなコミュニティ創生に向けた即興音楽の役割について、「音遊びの会」と「おとあそび工房」の実践例から得られた知見をもとに「関係性の音楽」の観点から音楽を捉え直す意味を論じた。

休憩を挟んだ後は、大阪マニラ都市研究フォーラムとして、フィリピン大学アジアセンターの米野みちよ准教授と大阪大学大学院文学研究科博士後期課程の中西美穂氏に講演いただいた。

米野氏は、「フィリピン地方都市の伝統文化継承：山村と国家の間」と題し、ゴングや竹楽器類を演奏するグループの映像を用いてお話しされた。フィリピンは貧富の差が激しいものの男女の差別は日本と比べて低く、多民族からなる。こうした文化事情のもとで伝統音楽がどのように継承されているのかを伝える、生活状況や儀式的準備の過程から撮られた映像が披露された。中西氏の講演「フィリピンのアートに出会う」では、近代フィリピンにおける美術と歴史の関係に焦点が当てられた。日本占領期にフィリピンに滞在した日本の小説家や画家たちの紹介にふれる一方で、政治、地理、民族と絡み合う現代フィリピンの多彩なアートシーンの報告が行われた。

また、終了後は、野のはなハウスにて、美味しい食事と飲み物とともに参加者間での交流会が行われた。

■沼田里衣（URP特別研究員〔若手・先端都市〕）



合評会での研究報告の様子

On the 9th and 10th March 2016, "Osaka City University's Urban Research Plaza (Platform for Leading-Edge Urban Studies) 2nd Annual Workshop for URP (Young, Leading Edge Urban) Special Researchers and UCRC Workshop (Overall Evaluation) joint with Manila Urban Research Forum" was held in the Osaka City University's Academic Information Center. On the first day the guest speakers Yoneno Michiyo, Associate Professor at the University of the Philippines' Asian Cultural Center, and Nakanishi Miho, a doctor student at the Osaka City University Graduate School's Faculty of Letters, gave lectures with the topics "Succession of Traditional Culture in Local Cities in the Philippines: Between Villages and the State", and "Meeting Modern and Contemporary Art in the Philippines". Further, during these two days, all 14 URP special researchers presented their research. While through this event the results of a global academic hub could be verified, it became also a great opportunity for active exchange, essential for further progress in urban research.

2日目はセッション3に振り分けられた研究員による報告から開始された。

セッション3の報告は、地域や都市における諸課題や生じている変化の分析等が中心的なテーマであった。セッション3の最初の報告は、メリチ・クルムズによって行われた。その報告のなかでは、日本における脱工業化による都市の変化が論じられた。2番目の報告は蕭閔偉(シャウ・ホンウェイ)より、大阪市の3つの旧同和地区において行われているインクルーシブな街づくりにおける現状と課題が論じられた。3番目の報告はヨハネス・キーナーより、大阪の西成区における生活保護受給者向けの住宅市場に関する分析の成果が論じられた。4番目の報告はアイヴァン・ローミチより、京阪神主要都市部における多様性に関する分析の成果が論じられた。5番目の報告は、林徳栄(イム・ドクヨン)によるものが予定されていたが、諸事情により報告書とパワーポイントの提出のみとなった。

続くセッション4の報告は、都市や地域の歴史的形成、あるいはそこで展開されてきた人々の生活を視点から分析しようとする視点に貫かれているものであった。セッション4の最初の報告は塚田孝(文学研究科教授)により行われ、近世大阪の都市民衆の生活について、孝子・忠勤褒賞を手掛かりに分析した成果が論じられた。2番目の報告は島崎未央より、生活必需品である灯明油の流通構造を通して近世日本の「法と社会」の形成過程のヒントを得るための分析について論じられた。3番目の報告は三田智子より、特に19世紀という時代に着目しながら、泉州南王子村における草場と得意場の分析の成果が論じられた。4番目の報告はジョン・ポーターより、関八州賤民組織解体の後、どのように浅草新町が再編成されていったのかが論じられた。5番目の報告はマイケル・アベレより、明治初期河内国におけるかわた村と在地社会に関して、草場の紛争の事例に着目しての分析の成果が論じられた。

最後となるセッション5の報告は、貧困や排除に対する反貧困や包摂の実現のための視点がその軸に据えられたものが多かった。セッション5の最初の報告は掛川直之により行われた。その報告では、刑務所出所者の排除問題と包摂に向けた課題が論じられた。2番目の報告は志賀信夫より、社会的資源が少ない地域における社会的不利の現状に関する分析の成果が論じられた。3番目の報告は兪秀娟(ユ・シュウケン)より、中国福建省の独居老人の現状に着目し、居住支援のこれからの課題が論じられた。4番目の報告は黒澤悠より、創造産業の批判的分析に向けた先行研究のレビュー、そして現在どのような点に着目した研究が必要とされているのかが論じられた。

以上をもって、研究発表会&フォーラムの全てのプログラムが終了した。

■志賀信夫 (URP 特別研究員)

### ▼3月9日(水)

#### 開催挨拶 (13:15~13:25)

阿部昌樹(都市研究プラザ(URP)所長)

#### Session1 (13:25~15:25)

全ウンフィ

「不法占拠バラック・ウトロの残存過程と民族をめぐる場所の政治」

鄭榮鎮

「八尾における「共生」の社会史—在日朝鮮人への民族教育を中心として—」

山田信博

「人口減少社会における公的住宅の処分過程に関する研究」

沼田里衣

「インクルーシブなコミュニティ創世に向けた即興音楽の役割に関する研究」

#### Special Session (15:35~18:15)

大阪マニラ都市研究フォーラム

米野みちよ(フィリピン大学アジアセンター准教授)

「フィリピン地方都市の伝統文化継承：山村と国家の間」

中西美穂(大阪大学文学研究科博士後課程)

「フィリピンのアートに出会う」

#### Session3~5 (10:00~17:30)

メリチ・クルムズ

「Contemplating the Japanese post-industrial urban change: Based on the gentrification literature from the Global North and South」

蕭閔偉

「公営住宅団地における住民の自立に向けたまちづくりに関する研究—大阪市の三つの旧同和地域の事例比較を中心に—」

ヨハネス・キーナー

「西成区における生活保護受給者向賃貸住宅市場の産と変容」

アイヴァン・ローミチ

「Patch Diversity in Keihanshin Major Metropolitan Area」

林徳栄

「劣悪居住地の機能とホームレスとの関係の変容—ソウル市におけるチョッパ密集地域を中心に—」

塚田孝

「近世大阪の都市民衆の生活世界—孝子・忠勤褒賞を手掛かりに—」

島崎未央

「油の流通構造にみる法と社会—泉州池田谷を起点として—②」

ジョン・ポーター

「関八州賤民組織の解体後における浅草新町の再編過程に関する一考察」

マイケル・アベレ

「明治初期河内国におけるかわた村と在地社会—草場の紛争を事例に—」

掛川直之

「処遇から「支援」へのパラダイム転換—出所者問題を地域の福祉課題として考えるために—」

志賀信夫

「社会的資源が少ない地域における貧困と格差に関する社会政策的課題—宮崎県北部地域の事例を通して—」

兪秀娟

「日中における独居高齢者の居住支援に関する研究(中間報告)—福建省の社会福祉サービス及び空き巣老人の現状を中心に—」

黒澤悠

「創造産業の批判的分析に向けて—研究動向と現下の課題—」

\* 司会は大岡伸一(URP 特任講師)、川井田祥子(URP 特任講師)、櫻田和也(URP 特任講師)、潘山海(URP 特任准教授)、コルナトウスキ・ヒェラルド(URP 特任助教)、タイムキーパーは堀裕典(URP 特任講師)、箱田徹(URP 特任助教)、上村修三(URP 特別研究員)が交替して務めた。

## 春の船場博覧会・船場のおひなまつり Spring Semba Exhibition 2016 “Semba Doll’s Day”



2016年2月26日(金)から3月3日(木)までの一週間、大阪の都心に位置する北船場地区において、春の船場博覧会2016「船場のおひなまつり」が開催された。これは2011年から毎年11月に開催されてきた地域活性化イベント「船場博覧会」のスピノフとして2015年に開催された特別企画が、今回から正式に「船場博覧会」として位置付けられたものである。秋の船場博覧会が主に地域資源としての近代建築に着目したものであるのに対して、春の企画は船場の生活文化、とりわけ旧家から代々伝わる雛人形と、それに伴う風習にスポットを当てた内容で構成されており、3月3日の雛祭りに合わせて開催された。これまでの船場博覧会と同様、地域の人々で組織した実行委員会が主催し、都市研究プラザは協力という立場で、船場アートカフェが企画のサポートを行っている。

メインの企画は4ヶ所の会場に分散展示された5つの雛人

形で、いずれも北船場にゆかりの旧家が代々受け継いできた立派なものである。展示に際しては専門家の監修を受け、会場も近代建築や神社の一角にスペースを設けることで、北船場の歴史と文化を複合的に体験してもらえる設えとした。主会場となった1927年建設の近代建築である芝川ビルには、会期中に5000人を超える来場があり、平日でも大変に賑わっていた。また周辺のホテルにパンフレットを設置したことが影響したのか、外国人が熱心に雛人形に見入る姿も散見された。

期間中は雛人形の展示に加え、料亭や寿司店、和菓子店など、北船場に点在する老舗の名店に雛祭りにちなんだ特別メニューを出してもらうことで食文化の体験機会を設け、山本能楽堂の楽師らによって五人囃子の演奏や、伝統舞踊である上方舞の奉納舞なども行った。

催しの内容や会場を様々に組み合わせ、まちなかに分散展開することで街に回遊性が生まれると共に、店舗等との協力によって地域の経済活動にも貢献した企画であったといえる。またヒアリング等の結果から、参加者と関係者の双方から高い評価を得た。一方このような企画の背景には、かつて船場に居宅を構えた商家が郊外への移転等によって雛人形を持って余し、展示する機会を失って消失の危機に瀕している社会状況があり、参加者においても昔の雛飾りの思い出に対する懐かしさから、高齢の女性を中心に大きな注目を集めたのではないかと考えられる。

実行委員会では、春と秋の年2回のサイクルで船場博覧会を開催していく予定であり、今後も継続して旧家の雛人形の所在調査を続けていくことになる。

■高岡伸一（URP 特任講師）

During the week from 26th February to 3th March 2016 in the Kita-Semba district, Located at the heart of Osaka city, the Spring Semba Exhibition 2016 “Semba Doll’s Day” was held. At the venue, consisting of four partly historical buildings, fine Hina Dolls that had been handed on over generations by old-established families from in Semba were exhibited. During the event more than 5000 visitors were counted at the main venue, Shibakawa building. In addition, established shops from Kita-Semba like Japanese restaurants or confectionaries were asked for cooperation, and offered during the event a special Doll’s Day menu. The event was hosted by an executive committee formed by local people, and as a collaborator the Urban Research Plaza supported the planning through the field plaza Semba Art Cafe.



## 第14回都市研究フォーラム

(ジョグジャカルタ)

## 14th Urban Research Forum (Yogyakarta)

都市研究プラザ（ジョグジャカルタ・オフィス）とインドネシア芸術大学、ガジャマダ大学文化科学部が共催する都市研究フォーラムは毎年1回開かれているが、第14回は2016年2月23日にインドネシア芸術大学キャンパス内のホールで行われた。今回のテーマは「A New Community Management through Arts and Culture」で、アグス・ブルハン芸術大学学長の挨拶、中川眞教授による基調スピーチの後、6名が午前から午後にかけて発表した。大阪市大からは文学研究科の大学院生である大井卓也氏が、大阪市西成区で活動するNPO法人「コッルーム」が主管する「釜ヶ崎芸術大学」についての発表を行った。インドネシア側からはガジャマダ大学から3名（トピックは「都市内の建築遺産」「都市コミュニティ」「カタロニア（スペイン）のコミュニティ運動」）、インドネシア芸術大学から2名（「アートを通じたコミュニティ賦活」「古教会における伝統音楽」）が発表を行った。聴衆を含めた参加者は約60名、質疑に多くの時間が割かれた。日本からの大井氏の発表が社会変革を見据えたものであったのに対し、インドネシア側からの発表が、コミュニティの「維持」に主眼を置いていたところが対照的であった。但しカタロニアについての発表者はスペイン人であり、スペインからの独立を企てる彼らの戦略を知れたのは収穫であった。コミュニティとはいったいどういう単位なのか、全体の議論はその再考をせまるものであった。

■中川眞（URP 兼任研究員／文学研究科 教授）



With the topic "A New Community Management through Arts and Culture", the 14th Urban Research Forum was held on the 23th February 2016 at the auditorium of the Indonesian Institute of the Arts. It was organized by the Urban Research Plaza (Yogyakarta Office), the Indonesian Institute of the Arts and the Gadjah Mada University's Faculty of Cultural Sciences.

## 第14回都市文化研究フォーラム

(バンコク)

The 14th URP Bangkok Urban Culture Forum  
2016: "Urban Culture - Rural Culture:  
Overcoming a Dichotomy"

2016年3月3日～4日、バンコクのチュラロンコン大学にて、都市研究プラザとチュラロンコン大学のURPバンコク海外センターの主催で第14回都市文化研究フォーラムが開催された。東・東南アジアを中心に、欧米からも合わせて20名ほどの研究者が研究発表を行い、都市社会と地域社会における芸術と文化の役割をめぐる議論が行われた。

今回の大きなテーマは、社会科学における都市理論と地方理論とのギャップを埋める上で、文化が持つ役割と可能性を探ることだった。URPからは3つの報告があった。箱田徹（URP 特任助教）は、現代都市社会をめぐるサイバー・ディストピア論に批判的にアプローチし、「夢を見る」実践の共同性を考察した。コルナトウスキ・ヒェラルド（同）は、シンガポールの移民労働者が直面している日常的な問題に対処するため、出身地の文化がどのように役割しているかを議論した。中川眞（URP 運営委員・文学研究科教授）は、フォーラムの参加者全員の報告をまとめ、グローバル時代における「都市」と「地方」の関係性を再考し、文化資源を通じた共生の可能性を探った。この他にもインドネシア、タイ、アメリカ、ノルウェーなどの事例研究が発表され、固有の文化が都市・地方社会に及ぼす様々な効果が幅広く議論され、最後のパネルディスカッションでは文化による社会的貢献のプロセスについての理解が深められた。

フォーラム初日の冒頭では、URPバンコク海外センターとの長年にわたる良好な関係が大きな契機となって実現した、大阪市立大学とチュラロンコン大学の大学間協定の締結式が行われた。これからも両大学間のさらなる交流が期待される。

■コルナトウスキ・ヒェラルド（URP 特任助教）

■箱田徹（URP 特任助教）

From 3rd March to 4th March, the 14th URP Bangkok Urban Culture Forum was held in URP's Bangkok Overseas Center. The annual forum raises topics on visual and creative art, performance studies, dance, cultural studies, ethnomusicology, urban planning and related disciplines that study urban culture through arts. This year's theme focused on the dichotomy between the rural and urban in social science, and how culture functions to overcome it and create ways for coexistence. The forum also set the stage for the signing of an MOU between Osaka City University and Chulalongkorn University.

## 第10回アジア・アーツマネジメント会議 10<sup>th</sup> Asian Art Management Conference

会議は、アジア各国のアーツマネジメントの研究者と実務家の交流を促進するために組織されたアジア・アーツマネジメント・ネットワークの活動として年1回開催されるものである。都市研究プラザはこの会議を2006年度以来、大阪、バンコク、ジョグジャカルタ、クアラルンプールなどアジア各都市で主催している。本年度は、3月17日～19日、フィリピン・マニラのデ・ラ・サール大学内のホテルを会場に、日本とフィリピンの様々な事例が報告された。また、最終日は貧困下にある子どもや性的虐待から保護された子どもにアートが提供されている現場を視察するプログラムがあった。日本からは、URP運営委員である中川眞教授と神戸大学の藤野一夫教授のほか、実践家としてURP特別研究員の平田オ

リザ、上田假奈代、雨森信の各氏、また遠藤水城氏、小島剛氏らが各領域でのアート活動について報告した。URP特別研究員（若手・先端都市）の沼田里衣は主宰する知的障害者とアーティストで新しい表現を開拓することを目標に活動するグループ「音遊びの会」について発表を行った。発表後には十分な質疑応答の時間が設けられており、フィリピンの学生や研究者と活発な意見交換が行われた。アートが多くの人びとにその力を発揮できるようにする為にはどのようにしたら良いのか、その問いを共に考えるためには、まずフィリピン独自の経済事情、貧富の差、多民族国家等を理解する必要があったが、会議と視察を通して、多様な方法で対話を開くための知恵が重要となるのだろうと感じた。

■沼田里衣（URP特別研究員〔若手・先端都市〕）



From the 17th to 19th March at the hotel of De La Salle University (Manila, Philippine) the 10th Asian Art Management Conference was held. Researchers and activists from the Philippines and Japan presented many projects, and opinions could be actively exchanged.

## URP先端的都市研究ブックレットシリーズ刊行

### Publication of URP Leading-Edge Urban Research Booklet Series

都市研究プラザは2014年度から文部科学省「先端的都市研究拠点」の認定を受けました。その一環として、これまでの研究の蓄積や様々な資源を全国の研究機関や研究者、地域や社会と共有すべく、公募型共同研究事業に取り組んでいます。15年度もその成果の一部を「URP先端的都市研究シリーズ」ブックレットとしてまとめ、3点刊行しました。

※関心のある方は下記までご連絡ください。ただし部数に限りがありますので、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

連絡先：先端的都市研究拠点事務局  
joint\_office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

■箱田 徹（URP 特任助教）



#### 『たたかう LGBT&アート』

本書は2015年度公募型共同研究事業「マイノリティをエンパワーするアート：LGBTの権利獲得運動におけるアートの役割」（代表者：山田創平・京都精華大学）として行われた連続講座「Cafe LGBT+」の記録を元に編まれた。セクシュアルマイノリティが尊厳をもって生きるために、アートがもつ社会の支配的な文脈や価値観をずらす「技」と「術」がどのように「使える」のかを、6人の論者が理論と実践の両面から論じている。

■箱田徹（URP 特任助教）



#### 『地域で支える出所者の住まいと仕事』

本書は、URP名古屋プラザにおける先端的都市研究拠点（共同利用・共同研究拠点）の2015年度成果報告を兼ねた1冊である。矯正施設等からの出所者が、社会に包摂された「一市民」として生きていくためには、地域の「人」と「資源」とを活用して、かれらを支えていく体制を整えていく必要がある。本書では、黎明期にあるこのようなくみの実践をふまえつつ、その支援のあり方を、「住まい」と「仕事」の確保を中心に検討している。

■掛川直之（URP特別研究員〔若手・先端都市〕）

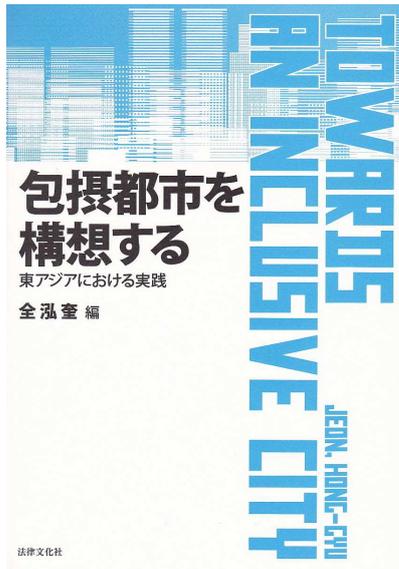
#### 『市大都市研究の最前線—公募型共同研究による連携講座2015』

本ブックレットは、2015年「共同利用・共同研究拠点形成事業」の一環で公募・採択した11件の共同研究の成果の一部を、2015年後期全学共通教育「市大都市研究の最前線」で講義したものを採録編集したものである。14章で構成され、テーマは、「都市のガバナンス」「都市創造性」「ホームレス支援」「市民運動」「地域再生」「社会的企業」「エスニックマイノリティ」等とローカルそしてグローバルに多岐にわたっている。

■上村修三（URP特別研究員）



『包摂都市を構想する：東アジアにおける実践』の刊行に寄せて  
Remarks on “Conceptualizing an Inclusive City: Practices in East Asia”



昨年、『包摂型社会：社会的排除アプローチとその実践』を刊行して以降、インクルーシブな社会空間や都市づくりに向けた研究や実践に向け、東アジアの現場での実践の共有に向けた回路をどのように築いていけばよいのかを考えて来ました。その結果、この度、都市研究プラザの関係者の協力を得て、一連の交流の成果をまとめることとなりました。

本書は、これまで5回実施してきた「東アジア包摂都市ネットワーク・ワークショップ」による共同研究の成果でもあります。第1回の台北を皮切りに、ソウル、大阪、香港等と続いた、都市間往還研究の成果を継続的に拡大発展させ、東アジアにおける「包摂型アジア都市論」へと実らせていくことを今後の課題と考えています。

本書は、それに向けた中間報告であり、次のステップを踏み出すための足掛かりともなるものです。今年度、第6

回目ワークショップのソウル開催が決まっており、東アジアの都市内の社会的不利地域の包摂的な再生に取り組む研究者や実践家が再び一堂に会します。本書がアジアの包摂都市のネットワークを広げる契機となることを期待しつつ、より多くの方々がこの輪に加わってくださることを願っています。

本書が対象としている都市の範囲は、日本を始めとする東アジアの4都市部(大阪、ソウル、台北、香港)です。そのなかでも、本書の中心課題である社会的不利地域の再生による包摂都市の構築にかんする政策や、地域での実践の事例を中心に掲載しています。具体的には、各国の都市内の不利地域に共通する居住福祉政策、多様な背景を持つ住民の居住にかかわる移民政策、地方の中小都市における格差や排除にかかわる現状やその解決に向けた草の根からの実践などに対し、これらの地域における最先端の都市問題に対応するため、当該地域の現状とその解決に向けた包摂都市関連政策や実践を共有していくことは、包摂型アジア都市の実現に欠かすことができないプロセスです。東アジアの各都市の経験を共有し、包摂都市を実現するための議論の材料となることを期待しています。

In this book policies and practices for revitalizing social disadvantaged areas in East Asia, and a lot of ideas to overcome different disadvantages, many cities have to deal with, are introduced. By sharing the different experiences of various cities we hope that it will become an important source for the discussion on the realization of the “inclusive city”. This book was written by teachers and researchers of the Urban Research Plaza in collaboration with the URP Oversea Centers (Seoul, Taipei, Hong Kong).

### 先端都市学講座～包摂型社会への挑戦

先端的都市研究拠点では今年度の新たな試みとして連続講座を開催することになりました。開催時期は7月および10月～1月を予定しています。詳細は後日プラザのホームページに掲載します。

- URP 先端都市特別研究員（若手）公募  
募集要項（平成28年8月募集分）は2016年7月に公表を予定しています。  
<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>
- URP-Newsletter 次号は2016年8月に発行予定です。

大阪市立大学都市研究プラザ ニュースレター 第31号  
編集長（発行責任者）阿部昌樹  
副編集長 水内俊雄 岡野浩 全泓奎  
編集主幹 鄭榮鎮 尾形由記  
<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>

**URP** ●●●●  
Osaka City University | Urban Research Plaza  
大阪市立大学 | 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が2006年4月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 tel.06-6605-2071  
e-mail : [office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp](mailto:office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp)  
所長 阿部昌樹 副所長 水内俊雄 加幡真一  
ユニット長 1U 阿部昌樹 2U 嘉名光市 3U 水内俊雄 4U 岡野浩